２０２１年１０月１０日<聖霊降臨節第21主日> 神学校日礼拝	No. 22463(28)

年主題	「恵みを数えつつ歩む教会」

１.礼　拝　順　序

司 式　　加 藤 牧 師
奏 楽　　オルガニスト

前　奏	
招　詞	ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。（イザヤ書４３:１）
○ 讃美歌	21-５６番（一編１８７番）1，3節
○ 主の祈り	（次ページ）
○ 交読文	１０　詩編３２篇（別冊p.10、一編交読文p.8）
○ 信仰告白	使徒信条（次ページ）
聖　書	ルカによる福音書１０:３８～４２（新約p.127）
祈　祷	
説　教	「必要なただ一つのこと」
祈　祷	小泉　健牧師（東京神学大学教授）
○ 讃美歌	21-４７２番（1，4節）
奉　献	お当番
讃美歌	21-６５-２番（一編５４８番）
報　告	
○ 頌　栄	21-２９番（一編５４４番）
○ 祝　祷	小泉　健牧師
後　奏	

２.集　会　案　内

○礼拝前祈祷会　１０：１５　於：礼拝堂前方
○特別講演会「コロナ禍の礼拝の守り方」小泉先生
　１２時くらいまで。昼食会はありません。
○礼拝堂お掃除　講演会後
○役員会　１４：３０～
※聖書研究・祈祷会は休会中です。それぞれの場にあってお祈りください。

聖書　(旧約聖書)エステル記４：４～５：１４(聖書日課・木曜日)

今月の祈り
- コロナウイルスに感染された方々のご快復と、感染症の一日も早い終息のために。医療従事者の方々のために。
- 伝道献身者のために。神学校のために。
- 宣教師のために。
- 土地・建物資金返済献金(**年間目標額: １００万円**)をおささげ出来ますように。
- 教区祈りのカレンダーより祈る教会：千歳教会　山本昭夫牧師、創立1947年、現住陪餐9、礼拝出席10、祈祷会出席9、ＣＳ出席－、予算345万円。

○次週主日礼拝 １０月１７日(日)１０時半
聖霊降臨節第２２主日

「天からのものか、人からのものか」
　マタイによる福音書２１：２３～３２　/加藤眞衣子牧師
司式：役員　奏楽：オルガニスト　　礼拝当番：担当者
招詞・ヨハネ１７：１～２　交読文・４１　マタイ伝５章
讃美歌・21-４３３、一編５３４、21-２９
○バイブルクラス　９：３０～１０：１０　於：教育館
○礼拝前祈祷会　１０：１５　於：礼拝堂前方
○礼拝堂お掃除　礼拝後
○教会学校礼拝　１５時　メッセージ：加藤牧師
　ヨハネによる福音書１５：１～１７　司式：ＣＳ教師
　どなたでもお集いくださって、ＣＳのためお祈りください。

【主の祈り】
天にます我らの父よ。
願わくは御名（みな）をあがめさせたまえ。
御国（みくに）を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、
地にもなさせたまえ。
我らの日用（にちよう）の糧（かて）を
今日も与えたまえ。
我らに罪を犯すものを我らが赦（ゆる）すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らを試（こころ）みにあわせず、
悪より救いいだしたまえ。
国と力と栄えとは、
限りなく汝（なんじ）のものなればなり。
アーメン。

【使徒信条（しとしんじょう）】

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊（せいれい）によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、

三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、

生ける者と死ねる者とを審（さば）きたまわん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し(ゆるし)、身体（からだ）のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。　アーメン。

〇本日は神学校日にあたり、小泉健先生をお招きすることができ、感謝いたします。小泉先生のご略歴です。
大阪大学文学部ご卒業、いのちのことば社出版部勤務を経て、東京神学大学大学院修士課程修了。ドイツ・ハイデルベルク大学ご留学(神学博士)。2008年に東京神学大学ご着任、現在、教授。ご専門分野：実践神学（説教学、礼拝学、牧会学、教会建設論）。
日本基督教団五反田教会、センター北教会牧師などを歴任後、現在、成瀬が丘教会牧師。ご著書：『主イエスは近い　クリスマスを迎える黙想と祈り』(日本基督教団出版局)など。
〇日本キリスト教団では毎年10月を「伝道献身者奨励月間」として覚え、おもに第2主日を神学校日とし、東京神学大学の教授や神学生たちが、いろいろな教会へ説教奉仕に出向きます。教会は伝道献身者のために祈り、神学校のために献金をいたします。また各個教会から伝道献身者(牧師)としての志を与えられる者が起こされることをも祈りつつ、この月を歩みます。コロナ禍の厳しい時代であるからこそ、伝道献身者が与えられるよう共に祈り、惜しみなくお献げし、献身者を送り出しましょう。